

いずこも同じ、全財産の寄付か。

誓 約 書

私は、此の度、最も正しくヤマギシズム生活を営むため、本調正機関に参画致します。
 左記物件、有形、無形財、及び権益の一切を、権利書、証券、添附の上、ヤマギシズム生活
 実地調正機関に無条件委任致します。

一、本 財
 身・金・知・能・力・技・実業資料の一切

一、適 財
 田畑・山林・家・屋敷・不動産の一切
 現金・預金・借入金・有価証券・及び権益・位階・役職・職権等の一切
 現金・預金・借入金・有価証券・一切申しません。

一、しかる上は、権利主張・返還要求等、一切申しません。 物財は如何様にも使用されても結構です。

一、以後、私は調正機関の公意により行動し、何時でも無期限入学致します。

一、調正機関の指定する研鑽学校へは何時でも無期限入学致します。

年 月 日 印

住 所
 氏 名
 生年月日
 電話番号

ヤマギシズム生活実地調正機関本庁 殿

2 ページ

手記「麻原氏はカルマを見切れるか」

11～3 ページ

寄稿「森達也氏らの発言に対する懸念」—その1

杉 本 繁 郎

手記 麻原氏はカルマを見切れるか

麻原氏はその人のカルマを見切った上でポアなどの決定をしたことになっているが、麻原氏のカルマを見切る力は本当なのだろうか。ちょっと疑問に思っていることがあります。

アングリマーラさんは坂本弁護士一家殺害を命じられたメンバーだったわけですが、坂本弁護士事件の後、教団を脱走して、警察にバラすぞと麻原氏を脅してお金を支払わせたそうです。

もし麻原氏がアングリマーラさんのカルマを完全に見極めることができ、その後の将来まで見通せる力があつたとしたらアングリマーラさんを実行役のメンバーに選んでいたでしょうか？ 現役の信者さんはもしかしてこう考えるかもしれません。そういうことすべてをわかった上であえて尊師はアングリマーラさんを実行役に選んだのだと。

しかし、当時、坂本事件の発覚は、教団の存亡にかかわるような大変大きな問題となるわけです。わかっていてあえて実行役に選んだのではあまりにもリスクが高すぎます。ほんとうにアングリマーラさんの将来を見通せる力があつたのなら当然、彼を実行役からはずしていたと考えられないでしょうか？ また、麻原氏にとってアングリマーラさんはまだ信者の少なかった初期の頃からの弟子だったし、本のワークのことや幹部信者という立場上、身近に接する機会も多かったはずなので当然、彼の性格とかもよくわかっていたはずです。そういう人あ w)・フ数ヶ月先のことすら見抜けなかったということになりはしないでしょうか？

それで、外部の人やあまり接する機会の少ない末端の信者のその後の人生や生まれ変わった後のことまでをはたして完璧に見極めることができるのかなと感じてしまいます。もし見極められていない状態で殺人などを行っているにすぎないとしたら、単に都合の悪い人間を宗教的もつもらしい理屈をつけて殺しているにすぎなくなってしまうのだろうか。

話は変わりますが坂本弁護士を生かしておいた場合の教団のデメリットと坂本事件を起した場合のデメリットでは、あきらかに生かしておいたほうがデメリットは断然少なかったのではないだろうか。事件を起した意味がまったく理解できません。すべてを見通す力を持っていたと言われる麻原氏ですがそのへんはどうなっているでしょうかね。

元 サ マ ナ

原の資金面での事件関与を否定するだけ
 証拠等提示したという事実は特になく
 からいささか逆説的ではありまあ麻原の裁
 判において麻原の資金面での事件関与は肯
 定され石井久子さんの事件関与は否定され
 といふことになると鬼いまあ
 これらふいと明らかになよう側近の暴走
 は石井久子さんが出金したアコムエクトの資
 金が麻原の命令によるものである石井さん
 とお丹秀夫さんあるいは石井さんだけの判
 断による出金されたものであるといふこと
 立証されたい限り成立しない主張である
 森氏渡辺氏の発言はこのような教団内での
 巨額の資金の流れを全く無視したものであ
 りあまりにも無責任だと思ひます

FUJITSUBO

(118号に2776)

うことが立証されたもの石井さんがこの資金の
 使用目的を明確に認識していたかどうか、ついで
 は立証されません。このあたりは、麻原の松本地下
 へのことから捜査段階において麻原の松本地下
 鉄函事件への資金面での関与が立証された石井と
 子さんの両事件への関与は立証されたことがあ
 り、わけであって、麻原の裁判において、この関
 へのことが立証されたのか、という点が残念なから
 ず、私は正確なことは把握していません。ただ、
 いかし麻原の裁判において、この関与のことが証
 明され、採用されたかどうかは別として、検察が証
 明請求はしているはずであって、少なくとも、
 麻原弁護団はこのようなことを把握していたはず
 であって、
 として麻原の裁判において麻原弁護団がこの麻

FUJITSUBO

と石井ス子さんの両事件への関与が絶対必要条件
 ということになりよう。
 一、かきつから95年の捜査段階において石井
 さんが逮捕され、以降、警視庁捜査二課が約半
 年間の渡り教団内の資金の流れを徹底的に調べ
 上げたものの石井さんを松本地下鉄両事件の共犯
 者として起訴することはできなかった。
 教団では非合法活動に使用する資金について
 は、プロジェクト（あるいはプロジェクトの資金）
 として処理されており、また、そこから松
 本地下鉄両事件で使用された資金及び失刻の
 両事件の前段階で使用された資金とあべて
 プロジェクトの資金ということになりよう。
 一、捜査段階においてこのプロジェクトの資
 金の出金についてはあべて麻原が命じたとい

鉄両事件を引き起こす前段階で例えはエ谷研
 究室(エ谷邸)の実験機具や試薬品、第クサティア
 ンのサリンプラント建設、大量のサリン原料購入
 等々教団から十数億かあるいはそれ以上の資
 金が必要とされたりする。あ
 りとからと森氏や渡辺氏らが言うよう
 麻原がこの松本地下鉄両事件に関与してあら
 側近が暴走したのだとあれば松本地下鉄両事件
 の首謀者は一体誰になるか。あ
 死人は口無しというところ。村井秀夫さん
 のかもしれませんが、村井さんでは教団内
 で巨額の教団資金を動かすことはできませ
 ん。教団内で巨額の教団資金を動かすことが出
 来るとは石井さんだけであ
 り。あから側近が暴走したのであれば少なくとも

FUJITSUBO

たのかといふことを全く無視した発言であ
ると私は思えるからである。
では何故私が両氏の発言を無責任だと考え
ていふのかについてお伝えしておきます。
(尚今回は松本地下鉄両事件についてのみ触れて
おきます)。

この森氏・渡辺氏が主張するのは、側近の暴走
についてあかぬけの暴走を考へる際、
明確にしておかなければならぬことがあ
り、それは松本地下鉄両サリン事件にお
ける教団の資金の流れについてである。
そもそも「サリン」と作れと言われ、も
当然のことながら簡単で作れるものではあり
ません。であらう教団において松本地下

FUJITSUBO

また、麻原の一審の際の弁護団団長であった渡辺脩氏がちょうど一年ほど前「週刊プレイボーイ」で大川豊氏と対談を行ない、この対談の中で渡辺氏は

「今回の事件は側近が勝手なことをした」

などと語りまた自身の著書の中で「側近の暴走について述べよう」というのであり、しかしながらこの両氏の「側近の暴走」発言はあまりにも無責任なものであり、と鬼いよと申し、またこの両氏の「側近の暴走」発言は今回の一連の事件の捜査段階において何が立証され何が立証されなかったのか、また麻原の裁判において何が立証され何が立証されなかったのか

FUJITSUBO

傍聴

「PLAYBOY」 44年12月発売

い
お
い
て

「麻原弁護団が弁護方針の大きな柱とした。側
近の暴走は、その意味では荒唐無稽な絵図
ではなない。ありうまうとだと僕は思っている。
ただ、側近は自ら暴走したとの自覚はな
ない。あべ尊師の指示なのだと思ひ込
いふ。そんなことで、おぼろげな犯罪が起
はかばかたないといふと、エキゾチックな人
なせならかつての日本がそうだった。もし
たら、今とそうなりつつある。」

などと述べたりする。

FUJITSUBO

そーして今回私は「PLAYBOY」に連載され
 ている本氏の文章に触れその内容の一部が
 無責任さを感じると共にその内容の一部が
 教団幹部らによって悪用されるのではな
 いかという懸念をいだいておりよあ
 (とーかしただらあが、悪用されていよのかと
 ーれません)
 そーして以下私があまりばと無責任なめではな
 いかと感づいていよとついでに伝えーて
 おきたいと思いきよあ

本誌達也氏は「PLAYBOY」の最初の連
 載となつた

「A子 麻原彰晃への新しい視点」連載第1回

◎森達也氏への発言に対する懸念

映画監督の森達也氏が「PLAYBOY」
(日本版「プレイボーイ」)の昨年12月発売号「P
LAYBOY 2」04年12月25日発売)から

「A3 麻原彰晃への新しい視点」

という連載を始めた。

私はこれまで、新聞等でも森氏の文章に接する機会が何度かあり、その際、森氏の視点は何ん？鋭いものだろ？と思うところがある反面、その視点の対して疑問を感じるところも多々あり、

FUJITSUBO

実はまだ見ていなかった、ビデオ屋さんで借りて見ました。本にもなっているみたい。是枝監督が脚本など、とのこと。良いです。

そりゃ、不十分なところもある。

- ・ 設定された修行内容と思想について、少ししか描かれていない。
- ・ 教団内の、無差別大量殺人までさせたグルの絶対性が、分からないだろう。破壊的カルトでは、勧誘手法の凄さ、教団内の上下関係、睡眠・栄養・情報の制限があるが描かれてない。
- ・ 加害者家族が主なのだが、兄弟や配偶者が主で、親が出ていない。
- ・ 話が聞きにくいところがあるのだが、まあだからこそ写實的、ヘッドホンをすればいいこと。

でも、うん、凄くいい映画です。

- ・ 出家する直前のさまざまなエピソードなど、まさに身につまされる。オウムについては、多くの元信者、ご家族の話を聞いているが、登場した「加害者家族」のエピソードは、まるで見てきた感じ。特に、靴とか、宮沢賢治本とか、知らなくて自分の感性で想像して描いたなら凄い話。だって、オウムでもあった話だもの。

・ 音楽がないのですね、後で気づいた。まるでドキュメンタリーのように。水の流れの音、鳥の声などを拾うことができたのは素敵。ただ、信者である間はそんな音が聞こえないのですがー上九の富士ヶ嶺にいたのに、富士山が見えたサマナ、鶯の音が聞こえたサマナは実に少ないのですー。

- ・ 実行犯が、「普通の人」ということを、良く分かってもらえるのだと思う。いや、普通よりいい人。

ああ、世田谷で先日話したときに、質問で「残っている人、純粹でいい人なんです何が残っているのか」という質問があり、「ええ、いい人ですよ、あの忘れて欲しくないのですが、実行犯も実にいい人なんです、多くのエピソードを聞いても、そして面会をしても、私を殺してきた人を含めて率直にそう感じるのです。それがカルト事件の恐ろしさなんです。」と言った。

必見ですね、カルト問題を感じるには。

ドキュメンタリーではないのにドキュメンタリーと言ったりして誤解を招かせるのと異なり、このようなフィクションこそ、カルト問題の一面だが真髓をつかむと思う。オススメです。

<http://www.cnet-sc.ne.jp/canarium/>